

はじめに

ベトナム北寧省順成県清姜社に残るルイロウ（羸婁）城址は、前漢から六朝・隋唐初期まで古代中国の郡県制下に置かれた交趾郡（交州）の政庁所在地である（図1、黄曉芬編著2017）。本遺跡の実態を解明するため、2014年度から19年度まで5次にわたる発掘調査を実施した。その結果、ルイロウ城址は、二重の土塁・濠に囲繞された外城・内城によって構成され、大きくIV期にわたる変遷をたどることが明らかになってきた。各期の年代は、I期（Ia期：前漢後期～後漢前期・Ib期：後漢）・II期（三国～東晋）・III期（南朝）・IV期（隋唐～大越）となる。各調査区の概要を以下に述べる。

1. 調査の概要（図2）

(1) 内城北東部（14・15LL.T1）

調査区は北門開口部に相当し、内城北門遺構ないし土塁の可能性をもつI期の盛土、その上位に重なるII期およびIII期の土塁盛土を検出した。

(2) 内城北東隅部（14・15LL.T2）

調査区は内城北東隅部に相当する。Ia期に地山を掘削し、Ib期に埋没したと考えられる内城東濠、その肩部に敷設されたIb期の東西方向の磚列、これらの上に重なるII期およびIII期の土塁盛土を検出した。

(3) 内城北東隅部（17LL.T9）

調査区は14・15LL.T2の東隣に位置する。14・15LL.T2で検出したIa～b期の内城東濠東部（幅約12.2m・深さ約1.1m）のほか、この濠から東に分岐する東西方向の濠を検出した。その上位には、II期の整地土および、そこから掘り込まれたIII期に埋没した南北方向の濠（幅約10.5m・深さ約1.6m）を検出した。

(4) 内城北西部（16LL.T6）

幅約9.4m・深さ約1.2mを測る内城北濠を検出した。壕埋土出土遺物から、濠の埋没はIII期と考えられる。

(5) 内城北西部（16LL.T7）

地山上位に重なるII期の整地層から掘削された幅約14.0m・深さ約1.8mを測る内城西濠を検出した。壕埋土出土遺物から、濠の埋没はIII期と考えられる。

(6) 内城南西部（16LL.T8）

地山上位に重なるII期の整地層から掘削された幅約9.9m・深さ約1.45mを測る内城南濠を検出した。壕埋土出土遺物から、濠の埋没はIII期と考えられる。

2. 内城の復元と今後の課題

以上に述べたように、内城の四周においてII期に掘削され、III期に埋没したと推定される濠を検出することができた。西濠が幅約14m、東南北濠が幅約10m、底部の標高はいずれの濠も約4.6～4.9mとなる。検出した濠をもとに推定復元した内城（濠内側）の規模は、長軸約178m・短軸約103.7mを測り、主軸はUTM座標の北から約21度西に振れている。

一方、I期の内城を区画する濠は、内城北東部の14・15LL.T2および17LL.T9における東濠のみしか検出できていない。I期における内城の実態解明は今後の課題となる。

<参考文献>

黄曉芬編著 2017『交趾郡治・ルイロウ遺跡II』フジデンシ出版

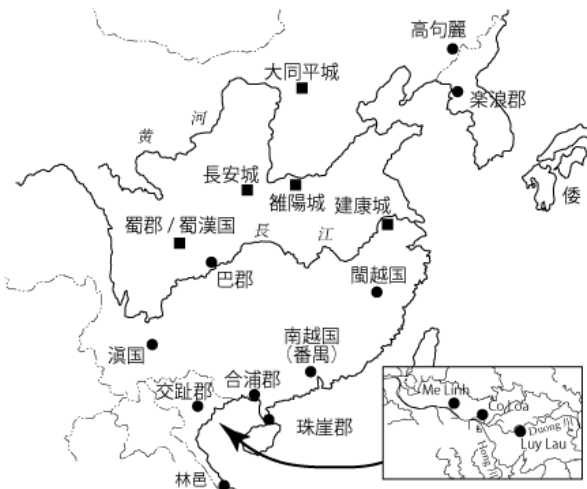


図1 交趾郡・ルイロウ城址位置図

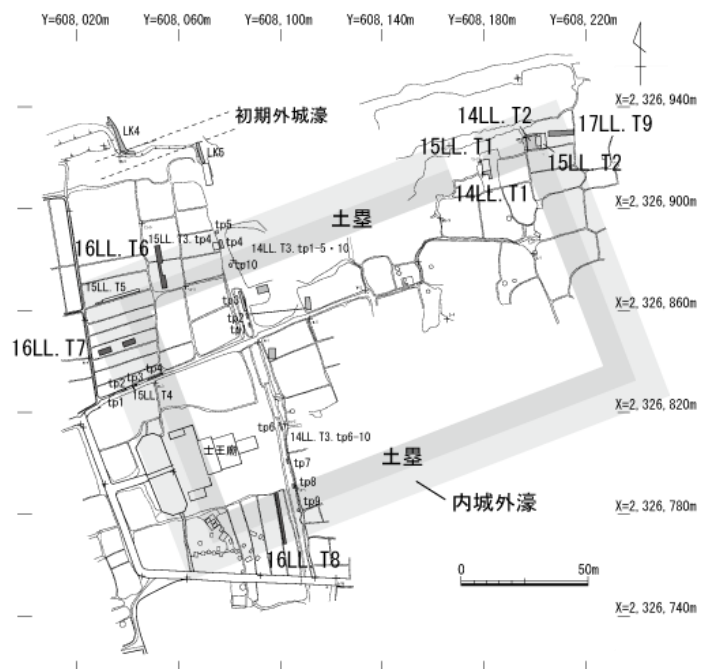


図2 ルイロウ城址 内城推定復元図 (II～III期、1/3,000)